



# **Female Soldiers in the Israeli Military: An Analysis Through Intersectionality of Gender and Ethnicity**

Yuki SAWAGUCHI  
(Hitotsubashi University)

This paper examines the structural inequalities among female soldiers in the Israeli military through the lens of intersectionality. It outlines two distinct power structures that permeate the Israel Defense Forces (IDF) – a gender regime that subordinates women, and an ethnic hierarchy that privileges Ashkenazi Jews (European-origin) over Mizrahi Jews (Middle Eastern- and North African-origin). The analysis demonstrates how these structures intersect to shape the unequal distribution of social and economic opportunities for female soldiers based on their ethnic backgrounds.

The findings reveal that Ashkenazi women are positioned to benefit from their ethnic privilege, associated with being “civilized” and “intellectual,” to convert their military service into advantageous career paths. In contrast, Mizrahi women are structurally excluded from such opportunities, facing multiple discrimination stemming from ethnic stereotypes within the military, restrictive patriarchal norms within their communities, and economic hardships.

By analyzing the internal divisions within the seemingly monolithic category of “female soldier,” this paper argues that an intersectional approach is crucial for understanding how the military enforces traditional gender norms and reproduces and deepens societal ethnic cleavages. This analysis highlights how unique forms of structural disadvantage are created for women positioned at the intersection of these hierarchies.

# ジェンダーとエスニシティの交差性からみる イスラエル軍の女性兵士

澤口 右樹  
(一橋大学)

## 要 旨

本稿は、イスラエル軍における「女性兵士」の多様性を、ジェンダーとエスニシティの交差性という視点から論じる。まず、イスラエル軍の二つの権力構造、すなわち男性を規範とするジェンダー秩序と、アシュケナジーム（ヨーロッパ系ユダヤ人）を優位に置くエスニックな階層構造をそれぞれ概観する。その上で、この二つの構造が交差することで、アシュケナジーム女性とミズラヒーム（中東・北アフリカ系ユダヤ人）女性の間、軍隊経験を通じた社会的・経済的機会の配分をめぐる深刻な構造的格差が生じていることを明らかにする。

分析が示すのは、アシュケナジーム女性が「文明的」・「知的」と見なされるエスニックな特権を背景に、軍隊経験を優位なキャリアへと転換する機会を持つ一方で、ミズラヒーム女性は、「非文明的」というステレオタイプ、コミュニティの家父長制、そして経済的困窮の重層的な作用により、その機会から構造的に排除されているという対称的な構図である。「女性兵士」という一見すると均質なカテゴリーを交差性の視点から分析することで、本稿は、男性優位な国家組織が、ジェンダーとエスニシティを交差させることで、これらに基づく社会的亀裂をいかに再生産し、深化させるかを明らかにする。

## 1. はじめに

1948年の建国以来、イスラエルは男女両性を対象とする徴兵制を敷いている。18歳以上のユダヤ人国民のほぼ全てを対象とするこの制度は、国際的な潮流の中でも際立っている。例えば、北欧ではスウェーデンやノルウェーですでに女性徴兵が導入されているが（Persson and Sundevall 2019）、2022年のロシアによるウクライナ侵攻以降の安全保障環境の悪化を背景に、デンマークも2026年から新たに女性を徴兵する計画を発表した（Jonsson et al. 2024）。しかし、これらの国々が実質的に志願した女性を徴兵登録するのに対し、イスラエルの制度はより包括的であり、その特殊性から、軍隊とジェンダーに関する研究においてしばしば「例外事例」として扱われてきた（佐藤 2022, 77）。

この「イスラエル特殊論」に対し、イスラエルを事例とする研究は、軍隊という制度が本質的にジェンダー化されているというフェミニスト国際関係論の知見（Enloe 2000 など）を援用し、その特殊性の内実を明らかにしてきた。イスラエル軍は「極端に男性優位な組織（a hyper-masculine organization）」であり、その構造下で女性兵士の経験が均質ではないことが指摘されている。例えば、



Lomsky-Feder and Sasson-Levy (2017) によれば、女性兵士の経験は社会経済階層によって異なる。高い階層出身の女性は、諜報部隊や指揮官といった地位で兵役を経験し、自己実現の機会として兵役を肯定的に捉える。一方、比較的低い階層出身の女性は、事務仕事といった周縁的な職務に就きながらも、兵役を抑圧的な家族やコミュニティから「脱出」する機会と見なす。

このように、女性兵士の経験をめぐる先行研究は、その多様性を規定する重要な要因として社会経済階層を挙げてきた。しかし、イスラエル社会において、個人の階層はエスニシティと分かちがたく結びついている。Enloe (1980, 15) が「エスニックな国家安全保障地図 (ethnic state security map)」という概念で示したように、軍隊は国家のエリート層が信頼する特定のエスニック集団を優遇し、そうでない集団を周縁化する装置として機能する。イスラエル軍においてもこの力学は当てはまり、兵役は、ヨーロッパ出自のユダヤ人 (アシュケナジーム) と中東・北アフリカ出自のユダヤ人 (ミズラヒーム) の間の格差を是正するどころか、むしろ再生産してきたと指摘されている (Smuha 1983)。

これらジェンダーとエスニシティといった複数の権力構造が、個人の経験をいかに重層的に形成するかを分析する視点が「交差性 (intersectionality)」である (Crenshaw 1991; Collins and Bilge 2020)。イスラエル軍の研究においてこの視点は、主に男性兵士の経験を分析するために用いられてきた。例えば Kachtan (2012; 2017) は、エスニシティと男性性が交差する地点で、アシュケナジーム男性とミズラヒーム男性の間に、体現される男性性や文化的な実践において差異が生じていることを示している。

これまで概観してきたように、イスラエル軍研究は、ジェンダーとエスニシティという二つの軸から、それぞれ兵士の経験の多様性を明らかにしてきた。しかし、女性兵士を対象とする研究は、その経験を規定する社会経済階層がエスニシティと強く結びついているにもかかわらず、両者がいかに交差し、女性たちの経験を形作り、社会的・経済的機会の配分を決定づけているかについては、十分に解明してこなかった。したがって、本稿は交差性の視点から、イスラエル軍におけるアシュケナジーム女性とミズラヒーム女性の間に、兵役経験、およびその後の社会的・経済的機会の配分において、いかなる構造的格差がもたらされるのかを分析する。

## 2. イスラエル軍隊における二つの権力構造：ジェンダーとエスニシティ

### 1) 軍隊のジェンダー秩序

イスラエルの兵役制度は、1949年に成立した『兵役法』とその後の改正によって規定されている (HaKneset 1986)。徴兵選抜過程は、16歳ごろに送付される「最初期召集令状 (ツァヴ・リション)」から始まり、個人面接、心理検査、医療・身体検査を含む選抜試験へと進む (Atar Mitgaysim 2024; Tsahal n. d.)。

この選抜過程自体に形式的なジェンダー差別はないものの、兵役制度そのものには、表1が示す通り、明確な男女差が存在する。女性の兵役期間は男性より短く、戦闘部隊や士官として男性と同等の期間を務めるには、本人が明示的に志願する必要がある。イスラエル軍では高級将校への昇進に戦闘部隊での指揮経験が重視されるため、これは女性の昇進機会に対する構造的な制約となっている。事実、女性兵士は徴集兵全体の33%、士官全体の51%を占めるが、大佐以上の高級将校

に占める割合はわずか14%に過ぎない(Karazi-Presler, Sasson-Levy, and Lomsky-Feder 2018, 576; Harel 2023, 2)。これは軍隊の「ガラスの天井」として問題視されている。

女性への徴兵が制度化された背景には、イスラエル軍が「国民軍」として多様なユダヤ人移民を統合し、国家安全保障の重要性を国民全体に浸透させるというイデオロギーがあった(Horowitz and Lissak 1989; Robbins and Ben-Eliezer 2000)。しかし、初代首相ダヴィド・ベングリオンをはじめとする建国期の指導者たちは、女性の国家への最大の貢献は、ホロコーストで失ったユダヤ人人口の再生産にあると考えていた(Berkovitch 1997, 609-11)。その結果、妊娠、出産、育児を理由とする兵役免除が認められ、男性は兵士になれる一級市民、女性は兵士をケアする(生み育てる)二級市民というジェンダー秩序が制度化された(Klein 1999)。

このジェンダー秩序は、軍隊内の具体的な権力関係として現れる。予備役招集年齢の差異は、「軍隊経験を積んだ壮年の男性指揮官」と「社会経験の乏しい若い女性部下」という非対称な関係を生み出す。多くの女性兵士、特に秘書官が男性指揮官の下に配属されることは、男性の地位の象徴となり、女性は性的客体として見なされやすい環境を助長する(Sasson-Levy 2007, 496-99)。この一例である軍隊におけるセクシュアル・ハラスメントについて、あるインフォーマントは上官からの性的関係を迫る態度に対し「どうすることができるのでしょうか？〔若い女性兵士は〕指揮官の行為が禁じられていることだとは知らないのですから」<sup>1</sup>と語るなど、軍隊内ジェンダー秩序が女性を性的客体化し、脆弱な立場に置いていることが分かる。

## 2) 軍隊のエスニックな階層構造

「国民軍」と共に、イスラエル軍が担ったもう一つの役割は、多様なユダヤ人移民を単一の国民へと統合する「メルティング・ポット」であった(Sasson-Levy 2017, 127-29)。しかしこの過程は、ヨーロッパ文化を継承するアシュケナジームを理想の国民像とする、ヨーロッパ中心主義的なものであった。建国期の指導者たちは、イスラエル生まれを意味する移民第2世代の「サブラ」(主にアシュケナジーム)を軍の指導的役割に据える一方、ミズラヒームに対しては、例えばベングリオンが「モロッコ出身者は教育を受けていない。彼らの習慣はアラブ人のそれだ〔中略〕モロッコの文化を、私はここ〔イスラエル〕で見たくはない」と述べたように、その文化を蔑視していた

表1 イスラエルの兵役制度概観

カテゴリー	男性	女性
兵役期間		
標準	32ヶ月	24か月
戦闘部隊	32ヶ月	32ヶ月
予備招集上限年齢	41-51	24
免除規定		
宗教	事実上	あり
アラブ人 / マイノリティ	あり	あり
健康	あり	あり
結婚	なし	あり
育児	なし	あり
妊娠	なし	あり

出典：CIA (2022); Gittleman (2022); Kol Zekhut No'ar (n.d.); Meytav (2018) を参照し筆者作成

注1：兵役期間は従軍する部隊・階級などで変化する。士官は48ヶ月、空軍パイロットは9年の従軍が義務付けられている。

注2：宗教を理由とする兵役免除は法的には女性にのみ適用されている。男性は徴兵延期による事実上の免除となる(澤口 2024; 2025)。

1 仮名A氏、2017年11月1日、筆者によるインタビュー



(Smootha 1978, 88)。

このエスニックな階層構造は、軍隊を通じて再生産された。そのメカニズムの核心にあったのが、長年にわたり徴兵選抜で用いられた「能力グループ (カバ)」という評価システムである。当初、カバは兵役不適合者のスクリーニングというリスク管理を目的として導入された。しかし、その評価基準はヨーロッパ式の教育を受けた者に有利であり、建国初期のイスラエル社会の教育格差をそのまま反映するものであった。結果、アシュケナジームは高いカバを、ミズラヒームは低いカバしか得られないという傾向が固定化された (Lerer 2021)。さらに重要なのは、このスコアが「自己成就的な予言」として機能した点である。カバのスコアは兵士の能力を予測するというより、むしろ配属先を決定づけることで兵士の将来そのものを規定した。つまり、「低いカバ」を与えられた兵士は、能力が低いという前提でキャリアが見込めない部隊に配置されるため、その評価を覆す機会を構造的に奪われる。したがって、カバは「正確に」兵士のキャリアを予測する指標と評価され、徴兵選抜で参照され続けた。このようにして、カバは客観的な指標を装いながら、エスニシティを「兵士の質」へと変換し、アシュケナジームの優位性を制度化する装置として機能したのである。

この構造は、イスラエルが経験した戦争を経て変化しつつも、本質的には維持された。1982年のレバノン侵攻後、アシュケナジームの間で反戦運動が高まり、彼らが戦闘部隊での勤務を拒否するようになった。この反戦運動が可能だったのも、アシュケナジームが社会的特権を維持するだけの政治的・社会的・文化的資本を十分に持っていたからである (Levy 2012, 42-46)。この反戦運動を受け、軍は新たな兵員供給源としてミズラヒームを必要とした。その結果、ミズラヒームは、死傷率の高い最前線の戦闘部隊、特に厳しい選抜基準のない「ゴラニ旅団」などに構造的に振り分けられていった (Sasson-Levy 2003)。

現代においても、このエスニックな棲み分けは、軍事技術の変化を伴いながら継続している。特に、イスラエル経済の根幹をなすハイテク産業への参入を助けるサイバーセキュリティ部隊「8200部隊」では、その傾向が顕著である。イスラエルの主要新聞『イディオット・アハロノート』の調査によれば、富裕層の多いアシュケナジーム中心地域の出身者は部隊に著しく過剰代表される一方、ミズラヒームが多く住む周縁地域の出身者は極端に過小代表されている (Yedi'ot Ahronot 2020)。例えば、経済首都テル・アビブに近いラマト・ハシャロンは人口比の3.3倍の兵士を輩出している一方、南部のネティボットの比率は人口比に対して3.2倍の過小代表となっている。

軍隊におけるエスニックな階層構造は、死傷者数の格差としても現れる。「死傷者のヒエラルキー」と呼ばれるこの現象は、前述の1982年のレバノン侵攻以降のアシュケナジームの厭戦機運を背景に、顕著となった (Levy 2012)。この格差は、2005年のイスラエル軍によるガザ地区からの撤退以降、ヨルダン川西岸地区やガザ地区周辺におけるパトロール任務中の死傷者のうち、周縁地域出身の兵士が78%を占めるとする報告からも見て取れる (Yedi'ot Ahronot 2022)。このように、「国民軍」や「メルティング・ポット」という理念とは裏腹に、イスラエル軍はエスニシティに基づき兵士の生命においても格差構造を生み出している。

これまで本章では、イスラエル軍の二つの権力構造を個別に概観してきた。しかし、これらの構造は兵士に独立して作用するものではない。次章では、この交差性の視点から、「女性兵士」という一見すると均質なカテゴリーの内部に存在する、分断と構造的な不平等を分析する。

### 3. 軍隊におけるジェンダーとエスニシティの交差性

#### 1) アシュケナジーム女性：ヨーロッパ性の特権とジェンダーの交差

アシュケナジーム女性は、軍のジェンダー秩序に従属するという不利な立場にありながらも、そのエスニックな特権を社会的・経済的機会へと転換する、特有の構造の中に位置づけられている。

イスラエル建国以前から、アシュケナジーム女性は、オリエンタリズムに基づき「哀れなアジアの女性であるミズラヒーム女性」を「救済」という「文明化の使命」を担ってきた。建国後、この役割は軍隊に組み込まれ、彼女たちはミズラヒーム移民を「教育・近代化」する要員として動員された (Robbins and Ben-Eliezer 2000, 319-20)。図1が示すように、移民吸収キャンプで教師として移民の子どもと向き合うアシュケナジーム女性兵士の姿は、この歴史的役割を象徴している。この配置は、彼女たちを「救済する側」、ミズラヒームを「救済される側」とする非対称的な権力関係を構築した。すなわち、軍は彼女たちをエスニックな支配構造の担い手として利用する一方、あくまでケアの担い手として国家のジェンダー秩序に従属させる形で動員したのである。

図1 移民吸収キャンプで教育を担当する女性兵士



出典：Rega'im Historiyim (2016)

このエスニックな特権は、現代においても、軍隊内での具体的な機会をもたらしている。例えば、エリートと評価される空軍では「青い目の女性なら入れる」という噂が囁かれ<sup>2</sup>、その外見的特徴がヨーロッパ性と結びつけられて評価される傾向がある。さらに、指揮官を務めたあるインフォーマントが「私と訓練した女性たちは、15人ほどいましたが、全員バレエ・ダンサーでした。彼女たちは指揮官や士官になりました。〔中略〕彼ら〔軍指導部〕が求めているのは〔中略〕継続して〔任務を実行する〕ための自己規律のようなものだったのだと思います<sup>3</sup>」と語るように、軍が求める「規律」といった資質が、バレエのようなヨーロッパ的な文化資本と結びつけられている。これは、彼女たちのエスニックな特権が、指揮官といった退役後のキャリアに有利な具体的な地位へと転換されるメカニズムが機能していることを示している。

さらに、アシュケナジーム女性が軍隊でキャリアを追求できる背景には、家事労働などをミズラヒーム女性に外部化できるという、社会全体の構造が存在する (Lavie 2018, 117)。歴史的に、アシュケナジーム女性が社会進出をする際、その家事労働はミズラヒーム女性に外部化されてきたが、その背景には、ミズラヒーム女性が歴史的に「知的でない」と見なされ、ハウスキーピングに代表される非熟練労働に多く従事してきたという経緯がある。ここから、アシュケナジーム女性の「機会の獲得」が、ミズラヒーム女性たちからの「機会の収奪」という構造の上に成り立っているという権力関係が見て取れる。

2 仮名B氏、2019年7月9日、筆者によるインタビュー

3 仮名C氏、2017年8月6日、筆者によるインタビュー



## 2) ミズラヒーム女性：複合差別

対照的に、ミズラヒーム女性は、アシュケナジーム女性に開かれている機会から複合的に排除されている。

この周縁化を示す象徴的な事例が、1950年代の「イエメン系幼児誘拐事件」である。この事件では、公営病院で出産したイエメン系女性の子どもたちが、親の許可なくアシュケナジーム家庭の養子とされた (Shohat 1988, 17-18)。背景には、アシュケナジーム女性は「望ましい国民」を育成できると見なされる一方、ミズラヒーム女性は「不衛生」で子育てに不適切であるとされるような、国家レベルで共有されたオリエンタリズム的な価値観があった (Madmoni-Gerber 2022, 6-7)。この事件は、ミズラヒーム女性が、国家建設の過程で「劣った母親」として周縁化されてきたことを示している。

こうした国家からの排除に加え、ミズラヒーム文化における家父長制もまた、彼女たちの兵役経験へのアクセスを制限している。ミズラヒームのコミュニティでは、女性の主たる役割は結婚と出産であるという伝統的なジェンダー規範が根強い。軍隊生活はこの規範と相容れないと見なされるため、兵役に就く女性は「売春婦」とまで見なされ、家族や親族から強い反対を受けるという状況が指摘されてきた。注目すべきは、この規範が時代を超えて頑強に存続している点である。1950年代のイラク系移民の女性たちが「女の子が軍隊に行く？それは私たちのものではない」と家族から言われたように (Khazzoom 2006, 212-13)、1980年代から90年代においても、兵役に就いたジョージア系女性が叔父から「売春婦」と呼ばれた事例が報告されている (Lomsky-Feder and Sasson-Levy 2017, 30)。

この規範の頑健さは、軍隊での功績さえもが無価値化される事例からも見て取れる。あるインフォーマントは、軍で法務官を務めたミズラヒームの女性親族が、その有益な軍歴にもかかわらず、地元コミュニティから「『やるべきこと〔結婚や子育て〕をしていない』という目で私〔この親族〕が見られる」というプレッシャーに晒されていたと語った<sup>4</sup>。彼女は「何をしたくとも、意味がありません。結婚をして、子どもを持つこと、これが期待されていたのです」という彼女の言葉が示すように、ミズラヒーム・コミュニティでの伝統的ジェンダー規範は女性の経験を制約している。

またミズラヒーム女性の困難さは経済的困窮とも結びつく。Lomsky-Feder and Sasson-Levy (2017, 22) が指摘するように、最下層の女性（その多くがミズラヒーム）は、家計を支える必要があることなどを理由に兵役免除を申請するケースが多く、兵役に就くこと自体が構造的に困難である。

仮に経済的な問題を乗り越えたとしても、軍隊内でのキャリアパスは構造的に制限される。「知的でない」といったステレオタイプに基づき、ミズラヒーム女性はキャリアに繋がらない周縁的な職務（事務仕事）に振り分けられる傾向が強い。その結果、あるミズラヒーム女性インフォーマントが兵役後に「〔兵役を終えた息子の友人たちが〕警備員〔をしているの〕を見たりします。彼らは万引き〔がないか〕を見たりする仕事があるのです」と語るように<sup>5</sup>、彼女たちのコミュニティ全体において、兵役から期待できるキャリアは警備員などの非熟練労働に限定されがちである。このように、ジェンダーとエスニシティが交差する構造の中で、兵役によってミズラヒーム女性に

4 仮名D氏、2023年1月30日、筆者によるインタビュー

5 仮名E氏、2023年3月3日、筆者によるインタビュー

開かれている機会の幅は極めて狭い。

ジェンダーとエスニシティが交差する構造は、ミズラヒーム女性を特有の構造的脆弱性の中に置いている。通常、兵役は「国民の義務」であるため、個人の社会的地位を高める契機となるはずである。しかし彼女たちにとっては、その兵役が、経済的困窮を改善しないだけでなく、結婚・出産という伝統的なジェンダー役割と相容れないものと見なされ、結果として自身のコミュニティ内での評価や結婚市場における価値を下げ、社会的地位を損なうリスクとなりうるのである。

#### 4. おわりに

本稿は、イスラエル軍における「女性兵士」の多様性を、ジェンダーとエスニシティの交差性という視点から論じてきた。第2章で軍隊のジェンダー秩序とエスニックな階層構造をそれぞれ示した上で、第3章では、この二つの構造が交差することで、アシュケナジーム女性とミズラヒーム女性の間、軍隊経験を通じた社会的・経済的機会の配分をめぐる深刻な構造的格差が生じていることを明らかにした。分析が示したのは、アシュケナジーム女性が「文明的」・「知的」と見なされるエスニックな特権を背景に、軍隊経験を優位なキャリアへと転換する機会を持つ一方で、ミズラヒーム女性は、「非文明的」というステレオタイプ、コミュニティの家父長制、そして経済的困窮の重層的な作用により、その機会から構造的に排除されているという格差の存在である。

本稿が明らかにしたように、交差性は単なる差別の総和を示すのではなく、重層的かつ独特の差別構造を描く上で有効である。また軍という「極端に男性優位な組織」において、周縁的な地位に置かれやすい女性兵士を対象とすることで、「女性兵士」というカテゴリー内部の多様性を描くことができる。こうした点からも、交差性の視座を軍隊の分析に導入する重要性を示すことができただろう。

最後に、本稿の限界として以下の点を指摘したい。第一に本稿は構造的格差に焦点を当てたため、この構造下で女性兵士が兵役経験をいかに解釈するかという主体性を論じられなかった。この点は別稿に譲りたい。また、本稿はアシュケナジームとミズラヒームというユダヤ人の二大エスニック集団に焦点を当てたが、イスラエル社会のエスニシティはさらに多様である。今後はエチオピア系やアラブ系（パレスチナ人）など、多様な出自を持つ女性たちを分析することで、イスラエル軍における交差性の複雑性を分析することを目指したい。

#### 参考文献

- 佐藤文香. 2022. 『女性兵士という難問』慶應義塾大学出版会.
- 澤口右樹. 2024. 「超正統派の徴兵問題とその歴史的背景」『季刊アラブ』189:14-16.
- . 2025. 「現代イスラエルにおける軍隊と宗教派の関係：歴史的背景と10月7日以降の宗教言説に注目して」『日本中東学会年報』41(1):91-125.

Berkovitch, Nitza. 1997. “Motherhood as a National Mission: The Construction of Womanhood in the Legal Discourse in Israel.” *Women’s Studies International Forum* 20 (5-6): 605-19.



- Central Intelligence Agency (CIA) . 2022. "Israel." In *The World Factbook*. Accessed July 24, 2025. <https://www.cia.gov/the-world-factbook/countries/israel/>.
- Collins, Patricia Hill, and Sirma Bilge. 2020. *Intersectionality*. Cambridge : Polity Press.
- Crenshaw, Kimberle. 1991. "Mapping the Margins: Intersectionality, Identity Politics, and Violence against Women of Color." *Stanford Law Review* 43 (6) :1241-99.
- Enloe, Cynthia. 1980. *Ethnic Soldiers: State Security in Divided Societies*. London : Penguin Books.
- . 2000. *Maneuvers: The International Politics of Militarizing Women's Lives*. Berkeley : University of California Press.
- Gittleman, Idit Shafran. 2022. "Women, Go for It!" *The Israel Democracy Institute*. March 8, 2022. <https://en.idi.org.il/articles/38429>.
- Harel, Ayelet. 2023. "Women in the Military in Israel." In *The Palgrave International Handbook of Israel*, 1-13. Singapore : Springer Nature Singapore.
- Horowitz, Dan, and Moshe Lissak. 1989. *Trouble in Utopia: The Overburdened Polity of Israel*. Albany : SUNY Press.
- Jonsson, Emma, Mikael Salo, Eleri Lillemäe, Frank Bruntland Steder, Thomas Ferst, Kairi Kasearu, Jurate Novagrockiene, et al. 2024. "Multifaceted Conscription: A Comparative Study of Six European Countries." *Scandinavian Journal of Military Studies* 7 (1) :19-33.
- Kachtan, Dana. 2012. "The Construction of Ethnic Identity in the Military—From the Bottom Up." *Israel Studies* 17 (3) :150-75.
- . 2017. "'Acting Ethnic'—Performance of Ethnicity and the Process of Ethnicization." *Ethnicities* 17 (5) :707-26.
- Karazi-Presler, Tair, Orna Sasson-Levy, and Edna Lomsky-Feder. 2018. "Gender, Emotions Management, and Power in Organizations: The Case of Israeli Women Junior Military Officers." *Sex Roles* 78 (7-8) :573-86.
- Khazzoom, Aziza. 2006. "Orientalism at the Gates: Immigration, the East/West Divide, and Elite Iraqi Jewish Women in Israel in the 1950s." *Signs: Journal of Women in Culture and Society* 32 (1) :197-220.
- Klein, Uta. 1999. "'Our Best Boys': The Gendered Nature of Civil-Military Relations in Israel." *Men and Masculinities* 2 (1) :47-65.
- Lavie, Smadar. 2018. *Wrapped in the Flag of Israel: Mizrahi Single Mothers and Bureaucratic Torture*. Revised Edition. New York : University of Nebraska Press.
- Levy, Yagil. 2012. *Israel's Death Hierarchy: Casualty Aversion in a Militarized Democracy*. New York : NYU Press.
- Lomsky-Feder, Edna, and Orna Sasson-Levy. 2017. *Women Soldiers and Citizenship in Israel: Gendered Encounters with the State*. London : Routledge.
- Madmoni-Gerber, Shoshana. 2022. "From Mainstream to Social Media: The Kidnapped Yemeni Babies Affair in Israel and the Fight for Memory and Justice." *Journal of Holy Land and Palestine Studies* 21 (1) :1-20.
- Persson, Alma, and Fia Sundevall. 2019. "Conscripting Women: Gender, Soldiering, and Military Service in Sweden 1965-2018." *Women's History Review* 28 (7) :1039-56.
- Robbins, Joyce, and Uri Ben-Eliezer. 2000. "New Roles or 'New Times'? Gender Inequality and Militarism

